

公益社団法人

日本山岳会

群馬支部報

第18号

2022年7月20日

2022 年度支部総会

3年ぶり対面形式で開催

根井支部長 「10周年に向けてステップの年に」 安全登山を目指し新たなルール承認

日本山岳会群馬支部の2022年度通常総会が5月18日、前橋市中央公民館で開催され、21年度の事業報告・決算報告、22年度の事業計画案、予算案など、予定した5議案を原案通り承認した。当日の会員総数60人のうち21人が出席(委任状23人)。総会はコロナ禍の影響で20年度は書面決議、21年度はリモート開催となっており、対面形式で開かれるのは19年度以来、3年ぶりとなった。



総会の冒頭、根井康雄支部長があいさつ。「コロナ禍によって対面での会議の開催が難しい状況が続いてきたが、そんな状況を逆手にとって委員会活動や小規模な勉強会を積極的に開催し、支部活動の活性化、安

全登山力の充実強化を図っていきたい」と呼びかけた。また来年は支部創立10周年を迎えることから、「新たな10年に向けて踏み出すステップの年としたい」としたうえで、今年11月に本県での開催が予定されている関東四支部の合同懇談会、来年9月ごろに谷川岳で計画している全国支部懇談会準備への協力を求めた。

その後、各委員会から活動報告と22年度の事業計画が報告された。山行委員会は田中規王委員長から21年度の会員の山行状況について、登山届受理が225回(20年度135回)、登山人数が延べ約482人(同200人)と前年を大きく上回ったことが報告され、22年度の支部山行計画が示された。自然保護委員会





3年ぶりに対面方式で開催された22年度通常総会

は木暮幸弘委員長が22年度の公益事業として「赤城フラワートレッキング」(5月28日実施)の開催や会員向けの八間山登山、玉原高原トレッキングなどへの参加を呼びかけた。事業委員会は武尾誠委員長が21年度に4期目となった健康登山塾について総括、22年度は公募形式の健康登山塾は休止とし、代わってタウン誌デリジェイによる誌上登山塾を3月から1年間実施するとした。総務委員会は荒木輝夫委員長が庶務、会計、広報の各活動内容を報告した。

規約等の改定では、遭難対策規程案、登山計画書の扱いに関する規約案について小池千秋事務局長が説明。登山計画書の提出は山行委員長及び安全登山委員会の計画書受理担当者とし、「山行委員長は必要に応じて登山計画書の具体的な内容について安全登山委員会に諮り計画の中止、変更を勧告・指導する」などの項目を設け、「安全登山を目指した新たなルールとしたい」との考えを示し、了承された。

事業報告と活動予定

山行委員会

◆2021年度山行委員会事業報告

山行委員会の計画は、年度当初の日程・場所の一部変更はあったものの、お陰様で無事に実施できました。参加してくださった会員の皆様、ありがとうございました。

・4月3日(土)角田山(参加者3人)

天気に恵まれ、穏やかな日本海、そして満開のカタクリ、最後に弥彦神社で安全登山を祈願し帰路についた。

・5月15日(土)袈裟丸山(参加者3人)

霧の中、弓の手コースへ。ミツバツツジ、アカヤシオが霧をバックに微妙な色合いを見せてくれた。 下山後は会員の経営する土蔵を生かしたカフェの2 階で山歩きの疲れを癒やした。

· 7月23日(金)~25日(日)上高地集中(参加 者11人)

「日本山岳会上高地山岳研究所」泊による上高地集中。今年度は、唐松岳班、常念岳班、針ノ木岳班の3班に分かれて実施。天気に恵まれ24日(土)の夕方には各班とも山研に無事集合できた。山研は、コロナ対策で人数制限のある中、群馬支部貸し切りで利用できた。

・9月12日(日)巻機山(参加者7人)

天気に恵まれ上越の奥深い雄大な稜線、山々、ま るで絨毯のような美しい景色を満喫できた。

・9月19日(日)麦草峠~北横岳(参加者8人)

6月、荒天のため開催できなかった北横岳山行を 9月に実施。天気に恵まれ蓼科山をはじめ、北アル プス、中央アルプス、南アルプスと雄大な景色に魅 了された。先輩方に見える山を教えていただき、槍 ヶ岳、穂高連峰、御嶽山、恵那山、鳳凰三山などな ど日本百名山10座を確認する事ができた。

·10月2日(土)尾瀬集中「秋の尾瀬合宿」(参加 者23人)

天気は台風の影響もあり、太陽が出たり隠れたりを繰り返していたが濡れることもなくまずまず。今年度は、アヤメ平班と至仏山班の2班に分かれ、それぞれ紅葉の深まる尾瀬を満喫した。また、本部、千葉支部からの参加もあり交流の輪が広がる合宿と

なった (ロッジ長蔵泊)。入館時には体温チェック、 三密対策をとって無事開催できた。

・11月6日(土)立岩(参加者8人)

当初予定していた戸隠山から西上州立岩に変更して開催。天気に恵まれ晩秋の岩稜を楽しんだ。千葉 支部からの参加もあり支部間の交流も深められた。

・12月4日(土)裏妙義縦走(参加者9人)

国民宿舎跡に集合し丁須岩から赤岩、烏帽子岩といった裏妙義の主要部を回る周回コース。チムニー内の垂壁20mの下降、次から次へと現れるクサリ場。 澄み切った空の下、全員笑顔で無事に下山した。

·2022(令和4)年1月1日(土)赤城山(参加者 15人)

今年の元旦山行は寒波襲来。開催も心配されたが、 予定していた長七郎山から鍋割山へ変更してスタート。日の出を拝めそうな開けた場所で待機したが御 天道様は拝めず。心の中で、今年の安全登山と群馬 支部の弥栄を祈念した。

·2022(令和4)年2月5日(土)八王子丘陵(参加者9人)

天気は晴れ。寒波襲来により冷たい北風が吹く中、 低山ハイクを楽しみながらの読図講習会。コンパス と地図を持ち充実した時間になった。

·2022(令和4)年3月5日(土)上州武尊山(参加者5人)

天気は晴れ、やや霞んでいるものの風もなく良好。 目の前の全てが、風と雪の芸術作品。自然が創り出 す雪庇や雪紋に感動しながら無事登頂。そして下山。 メンバー全員、納得、満足のいく雪山山行となった。

◆2020(令和2年度)会員山行状況

登山届け受理 135回 登山人数 延べ約200人

◆2021(令和3年度)会員山行状況

登山届け受理 225回 登山人数 延べ約482人

◆2022(令和4年度)山行委員会事業計画

今年度も原則月1回の支部山行を計画。参加メンバーによってコース分けをして、できるだけ多くの会員が参加できるよう工夫したいと考えている。また、コロナ禍のため日程変更、延期・中止も含めて柔軟に対応したいと考えている。山行を通して会員相互の交流、懇親を深めたいと考えている。ぜひ都合をつけていただき多くの会員の参加をお待ちしております。

1	4月29日(金・祝)	至仏山
2	5月15日(日)	浅間隠山
3	6月18日 (土)	蓼科山
4	7月3日(日)	谷川岳山開き
5	7月23・24日 (土日)	上高地集中 (蝶ヶ岳・表銀座ほか)
6	8月(山の日前後)	山の日イベント in 谷川岳 (谷川岳)
7	9月17・18日 (土日)	平ヶ岳
8	10月1・2日 (土日)	尾瀬合宿(尾瀬周辺数コース)
9	11月6日 (日)	妙義山(中間道・表妙義縦走)
10	12月27日(火)	谷川白毛門(ラッセル訓練)
11	1月1日 (元旦)	赤城長七郎山 (初日の出)
12	2月18日 (土)	赤城黒檜山(雪上歩行訓練)
13	3月4日 (土)	玉原 (スノーシューハイク)

(田中 規王)

自然保護委員会

「赤城山フラワートレッキング」を公益事業として5月28日(土)に実施。荒天に備え翌29日を予備日とする。コースは、赤城山VC→覚満淵→鳥居峠→長七郎山→オトギの森→小沼→八丁峠→赤城山VCを計画、30人を募集(小学3年生以上)。ヤマツツジ、トウゴクミツバツツジ、シロヤシオの競演を楽しむ。スタッフとして多くの会員のご協力をお願いした。下見を5月21日(土)に行い、情報を共有した。

このほか、会員向けの自然観察会として八間山登山、玉原高原トレッキング、美ヶ原スノーシュートレッキングを計画。

- ・八間山登山は7月9日(土)実施予定。野反湖畔 に咲くノゾリキスゲ群落などを楽しむ。
- ・玉原高原トレッキングは10月15日(土)実施予定。 関東有数のブナ林の黄葉を楽しむ。
- ・美ヶ原スノーシュートレッキングは2023年2月に 実施予定。2022年2月に実施する計画だったが、 まん延防止等重点措置期間だったことから見送っ た経緯がある。来シーズンはぜひ実現したい。
- ・そのほか、2020年、2021年と中止になった「山の 日イベントin谷川岳」の開催が決まった場合は、 群馬支部主管の「自然観察ツアー」に協力する。

(木暮 幸弘)

事業委員会

健康登山塾が映像化され、いつでも観られるよう

になったのをご存じだろうか。支部ホームページの バナーをクリックすると、デリジェイ(上毛新聞 TR発行のタウン誌)のページへ、そこから、 YouTubeの塾のページに飛び込める。

ドローンを駆使した玄人並みの映像と齋藤繁塾長の解説がおよそ5分間展開される。誌面の解説と映像がリンクする、ひと昔前の言葉で言うとメディアミックス。

支部は「協力」という形でこの企画にかかわっていきたいと考える。これも名義的な「協力」。取材などはTR側で行うから、会員にご足労をお願いすることはない。

4期にわたって実施した公募型の登山塾は、4期で節目となる。装いを新たにして再出発するか。あるいは、新たな視点の事業を始めるか。支部会員はどうお考えでしょうか。

支部会員の負担を考えると、ネット上、とりわけ、 映像を駆使した健康登山塾が継続性の点から無理の ない今後の展開と思うが。 (武尾 誠)

総務委員会

総務委員会の活動は次の4つの柱から構成されて います。

- ① 庶務担当: 例会等の会場手配、例会の議事録作成、 包括保険に関する報告業務、支部報等の印刷手配・ 発送業務、諸連絡および一般事務処理。
- ②会計担当:支部会計の出納、収支監理全般、本部への会計報告、および支部会費の徴収。
- ③広報担当(支部報チーム):年3回(1月、5月、9月)発行の支部報の企画、執筆および執筆依頼、編集および校正作業。
- ④広報担当(インターネットチーム): 支部ホームページのタイムリーな更新と本部デジタルメディア委員会との連絡・調整、Facebook、Twitter、Instagram等、SNSへの効果的な投稿など。

以上の通り、総務委員会では事務局とも連携して、 幅広く複雑な会務を分担してこなしています。今年 度も昨年同様、事務局と緊密に連携し、各担当の活 動をより効率的に進めるとともに、定期的に委員会 を開催し、各担当からの意見と、会員からの情報提 供等を反映させ、より充実した支部づくりに努めて いきます。

(副支部長・総務委員長 荒木 輝夫)

山行報告

赤城「初日の出」山行

毎年恒例となった初日の出を拝む支部山行が、今年も元旦に計画され嶺公園に集合した。しかし当日は寒波襲来の影響もあり、集合場所ですでに降雪状態。例年実施している長七郎山での御来光が期待できないことから、御来光の可能性を求め、荒山高原に変更することとなった。箕輪の姫百合駐車場へ移動し、ヘッドランプを頼りに荒山高原へ向かう。降



雪の中、わずかな可能性に期待をしたが、荒山高原でも降雪はやむことがなく、残念ながら直接御来光を拝むことはできなかった。参加者15人が初日の出の方向を向き、それぞれの安全登山を祈り、令和4年の幕開けとなった。今年も素晴らしい1年になりますように。 (小池 千秋)

山を愛する日本山岳会群馬支部会員の皆さんの胸には、これまでに登った数多くの山々の記憶が時が重なるように残されていると思います。そこで、心に残るあの日を振り返り、綴っていただくリレー随筆「想い出の山」を今号からスタートします。いつも眺めている身近な山や国内、海外の山々での貴重な経験、青春時代の仲間たちや山小屋での楽しいエピソードなど、皆さんの山にまつわる、とっておきの想い出を募集します。トップバッターは、前日本山岳・スポーツクライミング協会長の八木原國明さんにお願いしました。

想い出の山 ダウラギリW峰

八木原圀明

1970年前後の世界や日本、さまざまな出来事、事件があった。我々の地元群馬もそれらから逃れることはできなかった。いや、舞台にさえなった。登山界もまだまだ新しい挑戦が試されもし、夢の持てる時代であった。

1969年夏の加藤滝男。保男兄弟、今井通子さんらのアイガー北壁、71年冬の山学同志会の冬期アイガー直登計画に刺激され、我々も1969年秋に一ノ倉沢の衝立岩に直登ルートを拓いた。22歳と若かったし目方は20kgも少なかった。ネパールはこの69年秋からヒマラヤ登山を解禁した。

国内の冬の岩壁が登れれば、ヨーロッパアルプスの 北壁が登れる、と夢見ていた時にいきなりヒマラヤが 降って来た。浮かれまくった我々はすぐにヒマラヤへ 行こうとはしゃいだ。登れると思ってしまった。岳連 内にできたヒマラヤ研究会は1年も経たないうちにヒ マラヤ計画を打ち出す。素人は怖いもの知らずで怖い が、その典型であった。だが流石に本隊までは出せな かった。

1971年春、これまでに数多くの偵察、登山が試みられ難峰を誇るダウラギリⅣ峰(7661m)をターゲットとし3人で偵察に行く。東パキスタン(独立してバン



ダウラギリIV峰C2 ~ C3間のナイフエッジ (約5700m)。右が八木原

グラ・デシュとなる)が西パキスタンと分かれて独立したいとする「ダッカ紛争」が勃発しネパール・ヒマラヤへの7~8隊は散々な目に遭っていた。GHMJ隊(芳野満彦隊長)のテントに泊めてもらい、C2まで偵察して翌72年春の本登山となる。

出発直前の連合赤軍の浅間山荘立て籠り事件を心配しながら出発して登ったが、1972(昭和47)年4月30日、松井高重郎隊員が高山病死して登山は終わる。その後一世一代のつもりの登山を痛い目に、辛い目に遭いながら十数回も続けてしまい、冬期サガルマータ南西壁登山まで4半世紀間のヒマラヤ通いが続くとは考えもしなかった。

茶臼山 地図読み研修

山行日 2022年2月5日(土曜日)

根井支部長の掲げる中心テーマ「安全登山」の向上を目指し、地図読み研修を太田市と桐生市にまたがる八王子丘陵において、新型コロナウイルス感染対策を厳重に行ったうえで実施いたしました。

根井支部長、田中山行委員長を筆頭に、初めて地図とコンパスを手にする超初心者も含めた15人が「東毛青少年自然の家」に集合。ベテランには再確認として、初心者には難しいと感じることのないドリルで基本を確実に覚えていただくという指針で実施しました。

最高峰の茶臼山(300m足らず)周辺は適度なアップダウンと地図に記載のない分岐や生活道、作業道などが入り組んでいて地図読みの学習の場として好適な山でした。

下草も冬枯れして地形が視認しやすい季節でもあり、地図とコンパスをフル活用し、現在地掌握や進行方向などを確認しながら進めました。地図読みは気象、ファーストエイドと共に安全登山には必須のスキルです。参加者の高い習得意欲も相まって、各自基礎からじっくりと理解が深まる地図読み研修ができました。



もれ宮わスス中群医恵古をるリ森巨藪にま代思ミアの石塚

石切場跡』などとも出合い、大きな赤城山に抱かれた太田市や桐生市の大展望も楽しめた一日でした。

(加藤 博)

上州武尊山 支部山行

3月5日、山行委員会主催の年度末支部山行「上州武尊山」でデビューしました清水智恵子です。この日は田中委員長を先頭に計5人で、自分を除いて

みなさん健脚でした。

雪の武尊は 二度目です。 川場スキー場 のリフトを利 用するので夏 山より距離が



だいぶ短いです。前回の時はショートカットする人がいて、雪崩を誘発する危険があると聞いたことを思い出しました。晴天ならそれほど問題もない雪山ルートですが、2019年3月23日に吹雪の中、しかも11時40分過ぎに登山を強行しての遭難事例がありました。スキー場からの報告で、翌日発見されています。ここでは、リフト券を返却すれば、キャッシュバック、そしてココへりを確認しています。

雪山は、夏山のように登山道がわかりません。武尊は人が多くトレースもはっきりしていて、天候が良ければ比較的容易ですが、尾根が広い場合は、特に下山は危険です(狭い尾根は、雪庇注意ですが)。また、雪庇が発達しているところは特に注意しなければと思います。阿能川岳や小出俣山へ行く機会があり、特に感じました。5月1日に至仏山に至る斜面で発見された男性も迷ったのだろうと思います。

(清水智恵子)

水ノ塔山 雪山安全研修

3月13日、水ノ塔山での初級者向けスノーシュートレッキングと雪山登山における安全管理講習に参加した。参加者は11人。午前8時30分にアサマ2000パーキングに集合し、迫力ある雪上車で高峰温泉へ。リーダーの加藤会員より、スノーシューの履き方や雪山歩行のテクニックなど、初歩的なことを分かりやすくレクチャーしてもらう。登り始めは急登も無



く歩きやす い 雪 上 歩 行。気持ち 良く周りの 景色を楽し んだ。

中腹では 雪崩のしく み、雪庇の状態確認など説明を受け、雪を掘ってシェルターづくりの訓練を行った。森林限界を超えていくと少し急になっていく。足元には春を静かに待つシャクナゲが雪に埋もれていた。

頂上に着くとアサマ2000スキー場を見下ろせ、アルプス、八ヶ岳連峰、四阿山、浅間山の360度絶景パノラマに感動した。頂上で軽くランチタイム。景色を十分堪能し、下りは足の置き場を確認しながらゆっくりと高峰温泉へと向かった。

途中、雪崩を想定してのビーコン、プローブを使用した訓練を行ったが、予想以上に大変な作業であることを実感した。高峰温泉に到着し、ゆっくり温泉の予定だったが、帰り時間の関係で名湯三昧は次回に持ち越し。次回の山行を楽しみにしています。

(川端 恵子)

赤岳

山行日 1月8日(日)晴天

コースタイム 赤岳山荘駐車場 (7:00) ~南沢コース~行者小屋 (9:20) ~文三郎道~赤岳山頂 (11:20) ~地蔵尾根~行者小屋 (13:30) ~南沢~赤岳山荘駐車場 (15:25)

個人的に毎年の恒例である八ヶ岳の赤岳に登頂した。7時に駐車場を出発。この時点でたくさんの人が山に登って行った。南沢コースでは樹林帯で視界があまりなく黙々と進む。気温は-9℃で歩いていると暑いが、休憩で足を止めると寒さが襲ってくる。行者小屋に着き小休止、ここでアイゼンとピッケルを装備する。

文三郎道の途中から樹林帯がなくなり、見通しが 利くようになった所で周りを見ると、青い空と遠く の山々が見え始め、何度も振り返りながらきつい坂



を登っていく。きつい登りから岩場を経て山頂にた どり着く。もう何回も赤岳に登っているが過去一番 の展望が待っていた。北、南、中央アルプス、富士 山はもちろん、360度今まで見たことがないほど遠 くまで見られたことに感動を覚えた。

赤岳展望荘で小休止の後、地蔵尾根から下山開始。 登りと下りで人が混雑して思ったより時間をくって しまった。行者小屋まで戻り、アイゼン、ピッケル をしまい後はのんびりと。

登山中、終始風もなく、穏やか天気で最高の一日だった。 (槇 孝浩)

八ヶ岳天狗岳

3月19日(土)田中さん、槇さん、川端さんと念願だった八ヶ岳天狗岳へ。渋の湯登山口を8時出発、降っていた雨は止み黒百合ヒュッテに近づくにつれ青空が見え、半袖でも良いくらいの天候になった。最初は急登だが、樹林帯の中の静かな雪歩きが楽し



10分黒百合ヒュッテに到着。ここはビーフシチューが名物で、ほかにもチキンカレーなど食べたい物ばかりであるが、小休止し天狗岳へ向かった。中山峠を過ぎると2つのピーク東天狗岳、西天狗岳が見える。しかしまだまだ遠く、急登に心が折れそうになった。足が重く息を切らしていたのは私だけか、皆そんな様子はない。11時45分東天狗岳登頂。360度の展望はガスであまり望めなかったが、美しい赤岳主稜に癒やされ気分爽快。そしてもう一つのピーク西天狗岳に向かい、のんびり景色を堪能しながら昼食をとり下山した。雲行きが怪しくなり、登山口に着いた瞬間かなり雨が降ってきた。運良し、雪景色良しと楽しい山行となった。

次回はルートを変えて黒百合ヒュッテ泊もいい。 これから山の季節、今年はたくさんの山に登り、百 名山も進めたい。 (星野 弘美)

雪崩レスキュー講習会報告

星野 弘美

令和4年2月18日、19日、みなかみ町土合の家にて開催された群馬県山岳連盟主催の雪崩レスキュー講習会に参加しました。

1日目の午前中は室内座学で雪崩事故の現状などとビーコンについて学び、午後は屋外でビーコンとプローブの実習、その後座学で低体温症について学びました。ビーコンは多種多用で私の持参したビーコンは初期型で操作が難しく、主任講師の町田さんからお借りした新型マムートの機能、使いやすさに驚きました。

2日目は屋外でグループ別に捜索から掘り出し までの流れをシミュレーションで学習し、またス ノーマウントというシェルターを作りました。埋没から10分以内に呼吸確保しなければ生存救出は難しく1分1秒を争います。まずはビーコン操作をマスターし定期的な訓練を重ね身につけることと、リーダーの指示のもと周りの協力が重要であると実感しました。今回自ら希望し、実際に雪に埋めてもらいました。全く身動きがとれず埋没の恐ろしさを体感しました。毎年多くの雪崩事故を耳にする中で、自分と仲間が笑顔で帰れるよう今回習得した知識を生かし更に学んでいけたらと思っています。

今回ご指導いただいた主任講師の町田さんをは じめ講師の皆様、そして一緒に学んだ参加者の皆 様、たいへんお世話になりました。

鹿俣山・獅子ヶ鼻山

谷川岳の麓での勤務を開始してから、初めて迎えた冬。なんだか毎日雪と格闘していた気がしますが、それもそのはず。なんと今年の北毛は、例年の1.8倍の積雪量だったのです。とはいえ雪山には思ったように行けず、ただ悶々としていました。そんな折、先輩に声をかけていただき登ることができました。

「鹿俣山・獅子ヶ鼻山」は上州武尊の眼下にあり、たんばらスキー場から登りはじめる山です。この日は雪がしまっていたため、アイゼンを履くことなく行動できました。1つ目のピーク・鹿俣山までは、ものの10分ほどで到着。休むことなく、目指す獅子



ヶ鼻山へ向かい始めます。しばらくして、ふと振り返ると…そこには心躍る絶景が!白く輝く馬蹄形の山々に、谷川岳東

面の急峻な岩場。あまりの美しさに、数歩進んでは 足を止め、絶景を目に焼き付けてまた進む…という 動作を幾度も繰り返したのでした。

進むこと約1時間。獅子ヶ鼻山頂に到着。そこは 「時が止まればいいのに」と思うほど、360度絶景に 囲まれた素晴らしい場所でした。 その後、鹿俣山まで戻り小休止をとっていた時のことです。獅子ヶ鼻山頂でお会いしたご夫婦が声をかけてくださいました。聞けば、日本山岳会宮崎支部所属の方でした。「宮崎に来た時には連絡してね」と言っていただき、再会を誓いました。

平日休みの私に予定を合わせてくれ、素敵な山を 教えてくれた先輩。そして偶然の出会い。全国に"仲間"がいるのだと実感した山行となりました。

(中島あづさ)

榛名古道調査

榛名班の活動

群馬県中西部にそびえ、四方に裾野を広げる榛名山は、赤城、妙義とともに「上毛三山」のひとつに数えられています。榛名山に対する信仰は山麓の人々による祖霊信仰に始まり、その後、神道、仏教、修験などと深くかかわり、政治勢力にも大きく影響されながら、現在に至っています。

古くは山麓の人々による榛名信仰は中世末に在地 の有力者の布教と榛名御師たちにより関東一円に広 まり、さらに信濃、甲斐、伊豆、越後岩代にまで榛 名講が分布しました。

山麓の村々からの道は卯月八日(現在は5月5日) の榛名神社詣でなどで、近現代まで、少なくとも昭和30年代頃までは小学校、中学校の遠足などでも登られたという話もよく聞かれます。



古道を見守る石仏

今回の調査では、以下6ルートを選び各ルートリーダーのもと榛名班全員で調査をしました(【】内はチームリーダー)。

- ①岡崎道【根井】
- ②泉沢·植栗道【鈴木、荒木】
- ③分去~杖の神峠道【宮川】
- ④室田道【黛】
- ⑤箕輪道【黛】
- ⑥伊香保温泉~ヤセオネ峠道【田中】

これまでの調査で現地調査日は20日を超え、全体会議を2回、Zoom会議を3回開催しましたが、本調査には正解はありません。各リーダーは自分が納得いくまで現地に通い、文献を調べ、古道に詳しい方がいると聞けば、聴き取りにも伺いました。

なお、今回貴重な情報を提供していただいた方々 には、この場をお借りして御礼申し上げます。

(副支部長・総務委員長・古道PT榛名班長

荒木 輝夫)

NEWS [速報·短信]

関東と全国、2つの「支部懇」を連続で

昨年4月に群馬支部主催で予定されていた、関東 4支部(千葉、茨城、栃木、群馬)による合同支部 懇談会はコロナ禍で中止となりましたが、今年11月 に高崎市のワシントンホテルプラザ(高崎駅西口徒 歩5分)において1年半遅れで開催予定です。新型 コロナウイルスの感染状況は予断を許しませんが、 シングルユースでの宿泊を確保するなど徹底した感 染対策を施したうえでの開催となります。コロナウ イルスの感染状況も注視しながら、宿泊、講演会、 懇親会や山行・観光などの詳細は役員会で検討中です。

また全国支部懇は今年10月、神奈川支部主催で横 浜市郊外において開催予定ですが、来年はいよいよ 群馬支部主催で行われます。関東四支部懇とあわせ て、役員会で検討中ですが、2023年9月下旬から10 月上旬ごろ、谷川岳山麓のみなかみ町を主会場に実 施する方向で進めています。

八木原さんが上毛スポーツ賞

芸術や文学、スポーツ、社会活動で功績のあった 本県関係者を顕彰する21年度上毛賞の、スポーツ賞 スポーツ振興功労者に群馬県山岳連盟前会長で日本 山岳・スポーツクライミング協会前会長の八木原圀 明会員が選ばれました。

3月28日、上毛新聞社で行われた贈呈式で、八木原さんは受賞者を代表し、「受賞を励みに、それぞれの世界で精進したい」と謝辞を述べました。

INFORMATION =

街中山岳資料館 ドリームボックス石井スポーツに開設

みなかみ町土合の谷川岳山岳資料館(八木原 図明館長)には膨大な数の山岳図書が展示・収 蔵されています。その中で多方面から寄贈され るなどして重複しているものを整理・移設し、 より多くの人に貴重な資料や読み応えのある山 岳書に触れてもらう場をと、伊勢崎市宮子町の 登山・スキー専門店の石井ドリームボックス店 内に山岳図書コーナーが開設されました。

貴重な山岳図書が埋もれていく中、活用の道を探ろうと、八木原会員が温めていた構想が同店の協力で実現したものです。国内からアルプス・ヒマラヤまでの山岳書や古い貴重な資料をはじめ日本山岳会の『山岳』など、およそ800冊の本が並び、貸し出しも可能です。なお、前橋市上大島町の蔵前産業2階には橋本勝会員のご厚意で、初代支部長の故田中壯吉氏のヒマラヤ関係を中心とした蔵書300冊ほどが「田中壯吉文庫」として置かれています。あわせてご活用ください。

「健康登山塾」 4年間を振り返って

副支部長·健康登山塾長 **齋藤 繁** (群馬大学医学部附属病院長·大学院医学系研究科 教授)

日本山岳会群馬支部の活動として地元自治体や大学、新聞社の共催を得ながら「健康登山塾」を2018年度から2021年度の4年間にわたり開催した。地元の山々を歩きながら健康増進を図ろう、山登りの実力アップを図ろうという趣旨で計画を練り、毎回医師2~4人、看護師2人がつき、活動前後や歩行中のアドバイス、データ測定の補助を行った。各回ともコースの特徴に合わせて特別に意識すべき健康管理上の注意事項を設定し、参加者には課題を意識しながらの歩行を心がけていただいた。併せて、参加者には、日々のトレーニングが重要であり、塾開催時の運動は確認作業であることを十分ご理解いただいた。コースのガイドは日本山岳会群馬支部会員が毎回10人程度で担当した。

2018~2020年度の登山塾終了後、収集したデー

タの集計を行い、個人別の成績表と修了証を作成し、「まとめの会」において各人に両書式を授与した。同時に集計結果の概要と医学的な考察内容を講義形式等で解説した。そして、塾生には、塾修了後も登山を楽しみながら運動習慣を継続し、山に囲まれた群馬県の地の利を生かした健康管理を行うよう呼びかけた。

2018年度は、定員15人で募集したところ約120人の応募があり、抽選で25人が塾生となった。赤城山のコースを主たる開催地とした。2019年度は定員25人で募集したところ約80人の応募があった。榛名山を基本開催地とした。2020年度は約120人の応募者から25人を抽選で参加予定者としたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で開始時期が9月と予定よりも大幅に遅れ、開催回数も合計4回にとどまった。2021年度は新型コロナウイルス感染症の市中における感染状況が落ち着きつつあった10月から全5回の予定で開始した。それ以前3回(3カ年)の参加者にのみ広報し、そこに応募があった24人全員を参加予定者とした。各回のコースは、榛名、沼田、前橋市内、赤城と分散させ、積雪期も含め従前









①2018年度初回(群馬県庁昭和庁舎講義)、②2019年度第4回(榛名山掃部ヶ岳)、③2020年度第3回(赤城山黒檜山)、④2021年度第4回(赤城山地蔵岳)

とは異なる体験ができるように計画した。

全4年間の開催を通じて、各回とも非常に高い出席率で、参加者の運動習慣確立や生活改善が図られ健康増進につながったと考えている。2020年4月から上毛新聞の紙面において「紙上健康登山塾」を開催(掲載)し、2022年4月からは、より発行部数の多いタウン誌Deli-J(上毛新聞TR社発刊)に毎月「誌上登山塾」として定期掲載している。

健康登山塾の新たな展開 常設の登山塾はどうか

健康登山塾は18年から4期にわたって実施した。 ちょうど100人の塾生が巣立った。この上に医療・ サポートのスタッフが加わる。大変な数だ。一区切 りがついた今、改めてご協力に感謝します。

塾の「新たな展開」にはいくつかのアイデアがある。その中で、医療・サポートスタッフの負担軽減を踏まえると、常設の健康登山塾の設置がいいのではないか。

既設の登山路を結んで塾推奨の「健康トレイル」と命名する。新たに登山路を開発する必要はない。 入山口に説明標識、できれば、道中に統一した道標 を、拠点に地図付きの解説リーフレットを設置。気 が向いた時、いつでも塾の体験ができる仕組みだ。

県が進める赤城山の「活性化」が賛否を集めている今、「赤城健康トレイル」がいいのではないか。 大沼1周、外輪山をぐるりと回るトレイルだ。達者な人なら1日で、衰えた足でも2日もあれば、歩ける。「健康な自然」の中で「健康な身体」を一というフレーズはどうか。他の山域に広がっていけば、言うことはない。

路の整備が欠かせない。今、はやりの命名権の活用はどうか。登山路の整備・維持は一部の関係者だけで対応できないところまできている。山岳関係者、それを支える行政とスポンサー、サポーター(一般登山者)の協力が必要だ。登山道法制定の動きも始まっている昨今だ。

いずれにしても、重い役職にもかかわらず、軽いフットワークの齋藤繁塾長は、支部の貴重な人的財産だ。まだまだ、活躍をお願いしたい、と思っている。

(武尾 誠)

櫛形山山行

ゴールデンウイーク後半の5月7日、日本山岳ガイド協会公式認定登山ガイドでもある加藤博さんの案内で山梨県南アルプス市にある櫛形山に行ってきた。山梨県の山は初めてのため、どんな山なのか楽しみ半分不安半分での参加だったが、富士山も間近に見ることができ、期待以上の山行となった。企画していただいた加藤さんにこの場をお借りしてまずは感謝申し上げます。

標高2052mの櫛形山登山に参加したのは、木 暮家の2人のほか、群馬支部長の根井さん、加 藤夫妻と加藤さんの関係者5人の計10人。中尾 根登山口近くにある県民の森駐車場に午前5時 半に集合したのち、下山口となる北尾根登山口 に全員で移動。そこで車3台を残し、10人は2 台に分乗して南尾根登山口の氷室神社に向かっ た。

無事を祈って6時20分登山開始。最初はうす暗いスギとヒノキの人工林だったが、30分もすると開けた登山道になった。振り返れば「頭を雲の上に出し」た富士山が。思わず唱歌が口をつく。予報ではあまりいい天気ではなかったがこれは期待大、カラマツが皆伐された植林地を登る足取りも軽くなる。

歩き始めておよそ2時間、そのカラマツの植林地は私たちに幸運をもたらした。目の前にさえぎるものがないから富士山がよく見える。群馬では体感できない絶景にしばし心を奪われた。

10時前、避難小屋に到着。ここでは加藤さん



裸山山頂で。左から加藤、根井、 木暮(和)、木暮(幸)

群馬の藪山 ⑭

中山 達也

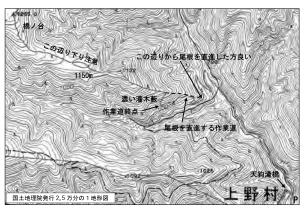
【橋ノ台】(1265 m)

2017年6月初旬登山 2.5万図 十石峠 上野村楢原 橋ノ台は国道 299号十石峠の北東約3km (水平) にある1265.0 m峰、地形図に山名の記載はない。

国道 299 号は湯の沢トンネルからの道と合流すると1車線の狭い道になる。この合流地点から約 3.5km 佐久方面に走ると黒川支流の沢を渡る天狗滝橋があり、手前から北に林道が分岐する。入口付近に車を停めた(P)。

1km 程歩くと河原を横切る。その先で鋭角に作業 道が分岐するが地形図の実線とは違う。そのまま直進 し170m程行くとまた鋭角に作業道が交差する。この 作業道を左に入ったが4回大きくターンして尾根の南 側に回り込み終点になってしまった。

灌木藪を直登して 970 m付近で尾根に出た。尾根は 急登だが針葉樹で藪は無い。やがて 1132 m峰に出る。 1150 m峰との鞍部に下りると踏み跡は消え、尾根が



(注) 3回目のターン後、尾根に出たら直進すると藪が少ない。 4 回ターンし尾根を直進する作業道に出てからでも良い(帰り に歩いた破線)。地図、コンパス(GPS)必携。現状は不明。

広くなるので帰りは要注意。

この先小灌木の密集した藪が一部あるが、カラマツ 林やブナ、ミズナラの自然林が多く膝程度の笹で方向 さえ注意して歩けば良い。雑木とカラマツの混じる山 頂は広く穏やかで「橋ノ台(藤畑)」と書かれた小さ なプレートが掛かっていた。

ないだい さいだい たいだい おかだ まいだ おかい は で ま 変 い。 黒 袋 から を が 疲



れた体に染み込んでいく。

長めの休憩の後、いよいよ核心部へ。天然カラマツの巨木が点在する緩やかな斜面の原生林を歩く。うす緑色のサルオガセ(地衣類)がカーテンのように樹木の枝から垂れ下がっている。幻想的な雰囲気。

その名の通り山頂部が長い櫛形山をそこそこに、裸山を目指す。昼食は南アルプスの展望が開ける裸山山頂でとった。残念ながら山頂部は雲の中だったが、北岳や間ノ岳の山体が眼前に迫っていて、見ごたえは十分。

下山の北尾根は明るい広葉樹林。下草がほとんどなく、トラバースするような右側が急斜面の、落ち葉が積もった登山道を注意しながら歩くこと3時間。途中、花の山百名山の田中澄江さんの碑

で休憩したものの、下りはちょっと長く感じた。 合計時間9時間34分、休憩時間2時間34分、距離 9.7 km、上り1107m、下り1187m。

なお、今回は加藤さんおすすめのビジネスホテル「スーパーホテル山梨・南アルプス」に前泊した。 天然温泉があって、近くには居酒屋もあってそれはそれでよかったのだが、「健康朝食」が売りの朝食が6時半からで、食べられなかったことが心残りといえば心残り。でもその分素晴らしい景色が見られたわけだから、良しということにした。(追加)

裸山山頂付近はコヒョウモンモドキというタテハチョウの仲間のチョウの生息地となっている。幼虫の食草はクガイソウ。田中澄江さんの碑にもクガイソウが記されているが、そのクガイソウを守るための防鹿ネットが山頂部から東側をぐるりと囲んであった。アヤメ平周辺も同様に防鹿ネットで囲んであった。先日、群馬県のレッドデータブックでヒョウモンモドキが絶滅したと発表されたばかりだが、櫛形山もニホンジカの食害に直面していることがうかがえる山行となった。

(木暮 幸弘)

事務局だより

〈2022年1月〉

- ■支部山行 赤城長七郎初日の出(1/1 赤城山・鍋 割山に変更)
- ■岳連理事会(1/12 前橋・前橋市福祉総合会館)
- ■日本山岳会群馬支部例会(1/19 Zoom)
- ■日本山岳会支部事業計画書・予算書提出(1/20)
- ■日本山岳会支部連絡会議(1/20 Zoom)
- ■健康登山塾 中止(1/22 赤城山)
- ■千葉支部との合同雪山交流 中止(1/29 小諸 高 峰高原)

〈2月〉

- ■エフエム収録 古道調査(2/4 エフエム群馬)
- ■読図講習会(2/5 八王子丘陵)
- ■国立赤城限界突破キャンプ 推進委員会(2/7 国立赤城青少年交流の家)
- ■岳連理事会(2/9 書面)
- ■登山教室指導者養成講習会 中止(2/11 小諸 安藤百福記念自然体験活動指導者養成センター)
- ■支部役員会(2/16 Zoom)
- ■支部会計打合せ(2/17 元総社中学校)
- ■健康登山塾 中止(2/19)
- ■岳連雪崩レスキュー講習会(02/19·20 土合山の家)
- ■古道 PT 榛名班打合せ(2/25 Zoom)
- ■岳連臨時総会 延期(2/26)

〈3月〉

- ■日本山岳会支部事業報告書提出(3/1)
- ■支部山行(3/5 上州武尊山)
- ■群馬県山岳団体連絡協議会三役会議(3/7 前橋・ 市民活動支援センター)
- ■岳連理事会(3/9 書面)
- ■健康登山塾 座学(3/12 前橋・群馬県庁)
- ■斎藤繁副支部長講演会(3/12 前橋・前橋テルサ)
- ■雪山講習会(3/13 水ノ塔山)
- ■赤城山基本構想意見書提出(協議会)(3/14 県自 然環境課)
- ■自然保護委員会 (3/16 Zoom)
- ■支部例会(3/16 Zoom)
- ■古道 PT 榛名班会議 (3/17 Zoom)
- ■会計報告書まとめの打合せ(3/22 元総社中)
- ■支部報編集会議(3/24 前橋・中央公民館)
- ■健康登山塾(3/26 赤城山)
- ■木暮理太郎翁の足跡を語り継ぐ会総会 中止(3/27 太田)
- ■ボルダリング教室(3/27 前橋・ヤマト市民体育館 前橋)
- ■古道 PT 榛名班会議 (3/28 Zoom) 〈4月〉
- ■全国山の日協議会 ネット関係者打合せ(4/7 Zoom)
- ■岳連理事会(4/13 前橋・前橋市福祉総合会館)
- ■前橋市中央公民館 利用団体連絡協議会(4/15 前

橋・元気 21)

- ■支部役員会(4/20)
- ■支部会計監査準備会合(4/21 元総社中学校)
- ■支部会計監査(4/27 前橋市立元総社中学校)
- ■支部山行(4/29 至仏山)
- ■国立赤城青少年交流の家研修会(4/29 国立赤城青 少年交流の家)

〈5月〉

- ■岳連理事会(5/11 前橋・前橋市福祉総合会館)
- ■支部山行(5/15 浅間隠山)
- ■支部総会(5/18 前橋・中央公民館)
- ■飯士山に登り仙ノ倉山荘に泊まる会(5/21・22 越 後湯沢)
- ■自然観察会「フラワートレッキング」(5/28 赤城山)
- ■岳連総会(5/28)

〈6月〉

- ■岳連理事会(6/8 前橋・前橋市福祉総合会館)
- ■支部役員会(6/16 前橋・中央公民館)
- ■支部山行(6/18 蓼科山)
- ■日本山岳会総会(6/18 東京・アルカディア市ケ谷 (Zoom))

〈7月〉

- ■谷川岳山開き(7/3 土合)
- ■上高地集中(07/23・24 北アルプス・上高地山研)
- ■支部例会(7/27)

(8月)

- ■山の日イベント in 谷川岳(8/11 谷川岳周辺) 〈9月〉
- ■支部山行(日程・山行地未定)
- ■支部例会(9/21)

〈10 月〉

- ■尾瀬合宿(10/1・2 片品・ロッジ長蔵) 〈11月〉
- ■支部山行(11/6 表妙義)
- ■支部例会(11/16)
- ■関東四支部懇(11/26・27 高崎・ワシントンホテルプラザ)

岩﨑 茂雄 嶋田 正弘 瀬沼 聡 白石 直子 阿部 知代 NPO ぐんま(団体会員) 中場 義則(特別会員)

久保田重夫 戸塚 人実 落合 一雄

日本山岳会群馬支部報 第18号 2022年7月20日

発 行:公益社団法人 日本山岳会群馬支部 〒371-0051 前橋市上細井町1200-7(根井方) https://shibu.jac1.or.jp/gunma/

発行者: 根井 康雄 編集者: 小池 千秋・萩原 哲

印 刷:上武印刷株式会社